

# 平成 28 年度まりも園事業報告

## 1 総括

職員退職後の補充ができず、派遣職員などで対応せざるを得ない状況が続いていて、今年 1 月に清瀬療護園から応援出向などを受けながらも、平成 27 年 4 月と比較し 1 名欠員状態で、継続して介護職員の安定的確保が重要課題です。

利用者支援と業務改善が滞った要因は、介護職員の不足と派遣職員等の定着の悪さもありますが、この数年介護職員の支援の仕組みを見直さなかったことも要因として検討が必要です。派遣職員の辞める理由やキャリアアップを求めて応募に応じた経験豊かな特養経験者が他の施設を選んだのも、支援の実態に要因があるからです。

職員不足からショートステイの受け入れを中止し、特別養護老人ホームの利用率 96.3%と低下しましたが、介護支援の仕組みの見直しと職場の働く環境の改善を次年度の中心課題とし取り組みます。

また、特別養護老人ホームのフロア会議（園長、各職種の責任者で構成）が定例化したことにより、職種間の情報の共有は進みましたが、それぞれの専門性を高め、利用者に対する総合的支援力を高める成果は得られなかったため、会議の内容の検討やフィードバックの見直しを行い、利用者支援体制を強化します。

## 2 重点目標（又は課題）の成果と課題

重点目標（又は重点課題）	成果と課題
<p>1 特養介護では、口腔ケアの充実による誤嚥性肺炎の予防、排泄時の陰部洗浄の徹底による尿路感染症の予防など、入院者を減らすための取り組みを強化します。</p> <p>また、ご利用者に対して適切で同質のケアが行えるように、利用者支援と業務改善とに内容を分けた月 1 回の他セクションとのワーカー会議を開催し、介護職員同士の情報共有と連携強化を図ります。</p>	<p>毎食後の口腔ケア・排泄時の陰部洗浄を実施しており、誤嚥性肺炎はなく、尿路感染症での入院もありませんでした。</p> <p>また、ワーカー会議は職員不足で参加者の確保が困難となり、ほとんど開催できませんでした。ケアワーカーの情報の共有のため、立ったままで行う 5 分間ミーティングを実施しましたが、ケアワーカーが支援のために意見交換をするワーカー会議の定期的開催は利用者支援の向上には不可欠で、時間帯や開催方法などを検討し、次年度は定期開催をします。</p>
<p>2 相談室では、年間稼働率 98%（特養・SS）を目標とします。さらに、空床期間を 2 週間以内とする為、次期入所待機者（男性 2 名・女性 3 名）を常に確保します。また、ご家族との信頼関係を構築するため、施設・利用者の状況をお便りなどで連絡を行っていきます。</p>	<p>年間稼働率 96.3%と目標を達成することはできませんでした。原因は、介護職員の不足などでショートステイの受け入れ中止や新規入所者の受け入れの制限を行ったことです。</p> <p>家族との信頼関係構築は、「家族だより」の引き続き発行し、家族懇談会を年 2 回実施しました。</p>
<p>3 栄養調理では、高齢者の生活の場であることを念頭に置き、栄養のバランスや季節感を楽しめる家庭的な食事作りを目</p>	<p>月一回の新メニューもしくはアレンジメニューに関しては概ね達成できました。</p> <p>また、四半期に 1 度の選択食も次の通り実施し</p>

<p>指します。利用者の満足を得られるように、月一回は新メニューもしくはアレンジメニューの提供と、四半期に1度の選択食を実施します。</p>	<p>ました。 6月：三色ご飯の具の選択（豚そぼろまたはほぐし鮭）、9月：鯡の香味焼きまたは豚肉の生姜焼き、12月：石狩鍋(みそ味・鮭入り)または豆乳鍋(しょうゆ味・豚肉入り、3月：カレーライスまたはハヤシライス</p>
<p>4 医務では、利用者の日々の健康状態を把握し、病気や怪我などの早期発見に努めます。また、嘱託医（内科、精神科）による診察を定期的実施し、さらに定期健康診断や予防接種なども行い、利用者の日常生活を支援します。</p>	<p>インフルエンザに1名感染しましたが、感染症対策が徹底でき、広がりませんでした。 12月から3月にかけての感冒の流行で重症の肺炎を併発された利用者がありました。大事には至りませんでした。感冒は高齢者にとって命とりになるばかりでなくADLの低下にもなるため、初期の段階での対応をさらに進めていく必要があります。</p>
<p>5 機能訓練では、利用者の日常生活を営むのに必要な機能維持と、さらに機能減退の予防に取り組みます。また、利用者や家族の意見を尊重し、個別プログラムを作成し、実施します。</p>	<p>個別機能訓練計画への目標は本人の希望や家族の意見を取りいれて、利用者の意欲を高めようとしてきました。しかし、老齢によるADL低下や体調不良などで機能低下した利用者もありました。今後は生活動作の減退予防と散歩などの外出の機会を増やして、機能の維持に繋げる必要があります。</p>

#### デイサービス

<p>1 年間稼働率72%(18名/25名/日)、80%(18名/20名定員/日)を目指します。</p>	<p>年間稼働率は目標には及ばず66%(16.5名/25名/日)でした。しかし、収支差額は30万円を確保しました。</p>
<p>2 認知症加算(60単位)の算定の体系化を目指します。</p>	<p>認知症介護実践者研修に今年度も参加できず、加算の算定を体系化はできませんでした。</p>
<p>3 サービス提供体制強化加算(I)イ(18単位)の算定の体系化を目指します。</p>	<p>平成28年度も継続し、サービス提供体制強化加算(I)イを算定ができました。</p>
<p>4 1回/4か月、家族懇親会の開催を目指します。</p>	<p>介護職員及び看護職員の退職や異動で職員配置の安定に時間がかかり、家族懇談会を先延ばしにし、実施の機会を失いました。家族の要望を聞く大切な機会なので、次年度は確実な実施します。</p>
<p>5 フェイスシート(ケアマニュアル)を基本とした援助の標準化(統一)を目指します。</p>	<p>フェイスシート(ケアマニュアル)をファイルメーカーで作成したことと、生活相談員と介護職員等との情報の共有を確実に行うことで業務の標準化が進みました。 今後の課題は、職員がご利用者の現存能力を最大限に引き出す援助を考えていくことです。</p>

## 居宅支援事業所

1 他セクション（特別養護老人ホームまりも園、まりも園デイサービス）との連携体制を構築し、地域において社会資源となる事業所を目指します。	デイサービスセンターとは、地域ニーズ情報の提供や利用が適切な地域の人を繋げていくなど連携が少し深まりました。しかし、特別養護老人ホームは短期入所の受け入れを中止したため、連携が中断した状態です。
2 年間支援率 85%（件数換算：68件）を目指します。（介護支援・予防支援含む）	年間対応延べ 637 件数にて 78%の稼働実績となります。
3 新規支援件数を毎月 2 件以上の対応を目指します。	職員の異動及び、入職があり支援対応が行えない状況となり毎月 2 件以上の新規獲得が行えない時期も生じました。
4 地域貢献活動の一環として、高齢者施設の専門性を活かした介護セミナーを他セクションと協働して年 2 回実施します。	実行に向けた体制を整備できず、実施できませんでした。

## 4 事業実績

記入をお願いします。

### 特別養護老人ホーム

	入所	短期入所	計	利用率%	入所	退所
4 月	1458	0	1458	97.2	0	1
5 月	1489	0	1489	96.1	1	1
6 月	1435	0	1435	95.7	1	1
7 月	1503	0	1503	97	1	0
8 月	1516	0	1516	97.8	0	0
9 月	1482	0	1482	98.8	1	3
10 月	1491	0	1491	96.2	2	1
11 月	1487	0	1487	99.1	1	0
12 月	1511	0	1511	97.5	0	0
1 月	1486	0	1486	95.9	0	0
2 月	1330	0	1330	95	0	2
3 月	1387	0	1387	89.5	1	0
計	17575	0	17575	96.3	8	9
昨年度	17883	173	18056	98.7	5	5

デイサービス

	通所	利用率%	新規入所	退所・休止
4月	385	59.2	0	1
5月	400	61.5	7	4
6月	431	66.3	1	2
7月	421	64.8	1	1
8月	407	60.3	2	0
9月	426	65.5	4	2
10月	456	70.2	3	2
11月	442	68.0	1	2
12月	475	73.1	1	3
1月	416	69.3	1	2
2月	390	65.0	0	2
3月	465	68.9	4	0
計	5114	66.0	25	17
昨年度	5286	68.0	10	24

居宅支援事業所

要介護	要支援	計
48	17	65
46	16	62
47	17	64
47	16	63
33	14	47
35	11	46
36	15	51
35	15	50
34	15	49
32	14	46
34	12	46
36	12	48
463	174	637
463	226	690

5 利用者の状況(平成29年3月31日現在)\*短期入所と通所は平成29年3月利用者

特別養護老人ホーム入所者

	男性	女性	計
男女内訳	12名	37名	49名
平均年齢	84歳	86歳	85歳
平均在所期間	3年 4月	5年 3月	4年 8月

デイサービス利用者

	男性	女性	計
男女内訳	9名	28名	37名
平均年齢	84.5名	86.5名	85.9名
平均利用期間	2年 8月	2年 8月	2年 8月

特別養護老人ホーム入所者要介護区分

区分	要支援者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
27年度	0名	2名	1名	3名	20名	24名
男性	0名	0名	0名	1名	7名	4名
女性	0名	0名	1名	3名	15名	18名
28年度計	0名	0名	1名	4名	22名	22名

短期入所者要介護区分

区分	要支援者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
27年度	0名	2名	0名	2名	3名	1名
男性	0名	0名	0名	0名	0名	0名
女性	0名	0名	0名	0名	0名	0名
28年度計	0名	0名	0名	0名	0名	0名

### 通所利用者要介護区分

区分	要支援者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
27年度	7名	5名	9名	6名	6名	3名
男性	2名	3名	1名	0名	2名	1名
女性	3名	5名	11名	4名	4名	1名
28年度計	5名	8名	12名	4名	6名	2名

### 6 利用者の身の周りの自立の状況(平成29年3月31日現在) \*通所は平成29年3月利用者 特別養護老人ホーム

#### 1) 食事状況

区分	自立	一部介助	全介助	経管栄養	合計
男	8	3	1	0	12
女	15	12	10	0	37
計	23	15	11	0	49

#### 2) 排泄の状況

区分	自立	一部介助	全介助	合計	ポータブル使用	おむつ使用
男	4	6	2	12	0	2
女	3	17	17	37	2	14
計	7	23	19	49	2	16

#### 3) 入浴の状況

区分	一般浴槽			機械浴槽	合計
	自立	一部介助	全介助		
男	2	2	0	8	12
女	1	2	2	32	37
計	3	4	2	40	49

#### 4) 洗面等の状況

区分	洗面				更衣			
	自立	一部介助	全介助	合計	自立	一部介助	全介助	合計
男	5	4	3	12	4	5	3	12
女	7	13	17	37	7	12	18	37
計	12	17	20	49	11	17	21	49

#### 5) 移動の状況

区分	歩行		歩行器	車椅子			合計
	自立	一部介助		自立	一部介助	全介助	
男	2	2	0	4	0	4	12
女	2	3	2	10	2	18	37
計	4	5	2	14	2	22	49

デイサービス（平成 29 年 3 月利用者）

1) 食事状況

区分	自立	一部介助	全介助	経管栄養	合計
男	7	2	0	0	9
女	25	2	1	0	28
計	32	4	1	0	37

2) 排泄の状況

区分	自立	一部介助	全介助	合計	ポータブル 使用	おむつ使用
男	5	3	1	9	0	0
女	17	10	1	28	0	0
計	22	13	2	37	0	0

3) 移動の状況

区分	歩行		歩行器	車椅子			合計
	自立	一部介助		自立	一部介助	全介助	
男	5	1	0	0	0	3	9
女	11	7	6	2	1	1	28
計	16	8	6	2	1	4	37

7 職種別職員数(平成 29 年 3 月 31 日現在)

特別養護老人ホーム

	常勤	非常勤	常勤換 算	嘱託	常勤換 算	派遣	常勤換 算	職員数 計	常勤換 算
施設長	(1)							(1)	(1)
副施設長	2							2	2
事務員	1					1	0.5	2	1.5
生活相談員	1							1	1
介護支援専門員	(1)							(1)	(1)
介護職員	13	5	2.6			2	2	20	17.6
看護師	1	2	0.9			1	0.6	4	2.5
柔道整復士	1							1	1
管理栄養士	1							1	1
調理員	3	2	1.7					5	4.7
洗濯員		4	1.3					4	1.3
医師				2	0.1			2	0.1
合計	23	13	6.5	2	0.1	4	3.1	42	32.7
昨年度	26	14	7.4	2	0.1	1	1	43	34.5

\*園長は 29 年 1 月から理事長が兼務。副園長のうち 1 名は 3 月 21 日採用で園長予定者。介護支援専門員は副園長が兼務。事務の非常勤は本部職員の出向である。

## デイサービス

	常勤	非常勤	常勤換算	嘱託	常勤換算	派遣	常勤換算	職員数計	常勤換算
生活相談員	1							1	1
介護職員	2	5	4.3					7	6.3
看護師									
准看護師		2	2					2	2
運転手		2	0.6					2	0.6
計	3	9	6.9					12	9.9
昨年度	3	9	6.5					11	9.5

## 居宅支援事業所

介護支援専門員	1	1	0.8					2	1.8
昨年度	1	1	0.8					2	1.8

※非常勤の介護支援専門員は、平成 27 年〇月採用

## 8 ボランティア・実習生の受け入れ人数

### ボランティアの内容と人数

#### 特別養護老人ホーム

活動名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
趣味活動	書道	4	3	4	4	2	1	4	2	3	2	2	3	34
	ちぎり絵	2	3	3	3		3	1	3		1	2	2	23
生活支援	昼食	1		1			1	3	2	2	1	3	2	16

## デイサービス

活動名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
クラブ活動	みんなで大正琴	2	1	2	3	2	2	2	2	3	2	2	2	25
	音楽クラブ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	尺八クラブ	1	1	1	1		1	1	1		1	1	1	10
	レクタイム	2	2	2	1	1	2	1	1	1	1		1	15
	アコーディオン演奏会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	生花クラブ	1		1	1	1	1	1	1	1		1	1	10
	みんなで歌う	2	1	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	21
	大正琴で唄う	7	7	7	6	5	6	7	8	7	8	8	6	82
	民謡を聴く会		4	2	3	4	4	2	4	5	6	4	4	42
	フラダンスを踊る		6	5	8	5	4	4	5	5		6	9	57
	コロロ探検隊			33	30			30			40		35	168
	臼井夫婦コンサート				3						2			5
	若香月会				19	10				7				36

	フラダンス団体				5						9			14
	朗読クラブ							1	2	2	2	2		9
	カントリーミュージック										4			4

### 実習生の免許資格・実習期間

学校名	免許資格	実習期間	日数	人数	受入事業所
日本福祉大学	社会福祉士	8/5~9/27 (内 24 日間) 8/29~10/12 (内 24 日間)	48	2	特養
東京学芸大学	社会福祉士	8/15~9/14 (内 23 日間)	23	1	特養
NHK 学園	社会福祉士	5/9~5/27 (内 12 日間) 6/6~6/22 (内 12 日間)	24	2	特養
中央大学	教職免許	9/5~9/9 9/12~9/16 10/3~10/7 10/10~10/14 10/17~10/21	35	7	特養
日本大学	教職免許	9/5~9/9	5	1	特養
帝京平成大学	教職免許	9/12~9/16	5	1	特養
上智大学	社会福祉士	5/10~7/16	30	1	通所
十文字学園女子大学	介護福祉士	11/5~11/26	4	3	通所
首都大学	教職免許	8/15~8/20	5	1	通所
城西大学	教職免許	8/22~8/27	5	2	通所
東洋大学	教職免許	8/29~9/3	5	1	通所
東京学芸大学	教職免許	8/29~12/24 (上記期間に 14 回)	70	39	通所

### 職場体験（体験学習）

団体名	目的	回数	延人数	摘要
上水中学	職場体験	4	12	通所
花小金井南中学	職場体験	4	8	通所
小平第 6 中学	職場体験	4	8	通所



## 9 事故報告

### 特別養護老人ホーム

種別	件数	内容と対応
関係機関報告 事故	5件	<p><b>1.【転倒・骨折】要介護4 女性</b>            ベッドセンサーの反応があり、訪室するとベッド脇に長座位で床に座っていた。外傷・痛み無し。様子観察とする。以後夜間良眠される。翌朝、起床介助のトイレ誘導時に立位困難、左大腿部に痛みあり。整形外科に受診し、左下肢の屈曲、伸展に問題なく、骨折は確認できずに帰園。同日、痙攣発作があり、救急要請をし、頭部 CT 施行。念のため、左足の CT 検査を実施し、左大腿骨骨折が判明する。</p> <p><b>2.【骨折】要介護5 女性</b>            浴室で右足頸部と大腿部内側に広範囲の皮下出血を発見する。整形外科に受診し、右大腿骨頸部骨折・右大腿骨顆上骨折していた。骨粗鬆症であり、通常の介護でも骨折の危険性が常にあるとのことで、日常の介護方法については、個別マニュアルを作成した。</p> <p><b>3.【転倒・出血】要介護4 女性</b>            ベッドセンサーの反応があり訪室するとベッド脇の床に左側臥位で転倒していた。左眉と額の間に 3cm 程の裂傷および出血があり、受診し縫合した。タオルケットが足に巻き付いていたことによる転倒である。</p> <p><b>4.【転倒・出血】要介護5 女性</b>            主治医往診のため椅子から車いすへの移乗で、職員が離れた場所にある車いすを取りに行こうとその場を離れた際に前方へ転倒する。右前額部の裂傷および出血で縫合処置をする。頭部 CT・胸部、膝のレントゲンは異常なし。</p> <p><b>5.【落薬】要介護3 女性</b>            フロアに錠剤が 1 錠落ちていた。薬の内容を確認し、朝食時に服用している利用者を特定し、様子観察を行う。特に異常はなかった。</p> <p><b>課題</b>            職員が介護中の事故が 2 件発生した。介護の手順に踏まえた環境整備と服薬は飲み込むまで確認することを再度徹底し同様の事故の防止を徹底する。また、利用者の高齢化、重度化に踏まえ、2 の骨折事故を教訓に、骨粗鬆症対象者の日常の介護方法の個別マニュアルの作成に取り組む。            《昨年度は、骨折 2 件、誤嚥 1 件》</p>
施設対応事故	226件	<p>⑥ 転倒関連            転倒 23 件、転落 12 件、滑落 0 件（うち介護中の事故 2 件）</p> <p>⑦ 怪我関係            内出血 115 件、痣 2 件、切傷 13 件、擦傷 11 件、表皮剥離 19 件、捻挫 0 件、熱傷 1 件、（うち介護中の事故 13 件）</p> <p>⑧ 服薬関連</p>

		<p>誤薬 0 件、服用忘れ 0 件、飲みこぼれ 2 件</p> <p>⑨ 食事関連 異食 1 件、誤配膳 5 件、過剰摂取 11 件、誤嚥 2 件</p> <p>⑩ その他 利用者間トラブル 8 件、無断外出 1 件</p> <p>《昨年度は、324 件。うち、転倒・転落・滑落 72 件、表皮剥離・内出血 154 件、服薬関係 23 件》</p>
ヒヤリハット報告	141 件	<p>① 転倒関連 転倒 45 件、転落 27 件、滑落 2 件</p> <p>② 怪我関係 内出血 5 件、切傷 3 件</p> <p>③ 服薬関連 誤薬 1 件、服薬忘れ 1 件</p> <p>④ 食事関連 異食 6 件、誤配膳 5 件、過剰摂取 11 件、誤嚥 1 件</p> <p>⑪ その他 利用者間トラブル 25 件、無断外出 4 件、私物破損 1 件、設備破損 4 件</p> <p>《昨年度は、345 件。うち、転倒・転落・滑落 189 件》</p>

#### デイサービス

種別	件数	内容と対応
関係機関報告事故	0 件	<p>なし</p> <p>《昨年度は、なし。》</p>
施設対応事故	7 件	<p>① 転倒関連 転倒 4 件、転落 0 件、滑落 0 件（うち介護中の事故 3 件）</p> <p>② 怪我関係 内出血 1 件、痣 0 件、切傷 0 件、擦傷 0 件、表皮剥離 2 件、捻挫 0 件、熱傷 0 件、（うち介護中の事故 2 件）</p> <p>③ 服薬関連 誤薬 0 件、服用忘れ 0 件、飲みこぼれ 0 件</p> <p>④ 食事関連 異食 0 件、誤配膳 0 件</p> <p>⑤ その他 利用者私物の破損、のトラブルなど項目を挙げ記載すること。</p> <p>《昨年度は、14 件。うち、転倒・転落・滑落 7 件》</p>
ヒヤリハット報告	3 件	<p>① 転倒関連 転倒 0 件、転落 0 件、滑落 1 件</p> <p>② 怪我関係 内出血 1 件、切傷 0 件</p> <p>③ 服薬関連</p>

		誤薬 0 件、服薬忘れ 0 件 ④ 食事関連 異食 1 件、誤配膳 0 件、過剰摂取 0 件、誤嚥 0 件 ⑥ その他 利用者間トラブル 0 件、無断外出 0 件、私物破損 0 件、設備破損 0 件 《昨年度はなし》
--	--	---

## 10 苦情

苦情申立月	苦情の内容	対応と結果
1 件_通所	ご利用者の支援に関しご家族に依頼されている内容と異なる支援を現場職員が自己判断で行った。	直ちに謝罪をし、利用者支援の変更は、必ず生活相談員と協議し、ご家族への説明と同意を得ることを徹底した。

## 11 福祉サービス第三者評価の指摘に基づく改善状況

### 特別養護老人ホーム

平成 28 年の「改善が望まれる点」の改善状況	
改善項目	内 容（上欄は改善要望・下欄は改善の取り組み）
1. 利用者が求めるものを軸に、ボランティアなどを活用し利用者の多様な楽しみの時間をさらに増やすことを期待する	従来から書道クラブなど、利用者の主体的な訴えを生かしたボランティアによるクラブ活動を行なっている。今後は、ボランティア担当を決め、職員の知人、利用者家族やその知人、小平市のサークルや団体などに直接声をかけ、ボランティアを拡充し、利用者の多様な楽しみの機会を増やすことを期待する。利用者の訴えが聞き取れない場合でも、隣に座って共に時間を過ごす、一緒にテレビを見ている等の、静的な関わりや、一緒に車いすで園内を散歩する、一緒に体操するなど、多様な関わりの中で、利用者の生活の幅も広がってくると思う。
改善状況	受け入れに積極的でなかったことは事実で、職員に受け入れの意義を理解させ、受け入れの方法や内容を検討し、平成 29 年度に実行します。
2. まりも園らしい潤いのある生活の様子をホームページなどに反映するなど、情報媒体での広報の工夫を期待したい	ホームページは入居希望者のみならず、家族、新卒者など就職希望者、関係者も閲覧し、まりも園を理解する手立てである。しかし、ホームページの「まりも園の生活」「一日の流れ」を見ると、生活らしい映像はない。余暇活動や生活の殆どが集団生活を伝えるばかりである。まりも園らしい「うるおいのある生き生きとした生活」を実感できるような、季節ごとの個別支援の様子を反映させてほしい。個人情報保護遵守のもとプライバシーに配慮しながら、各専門職の活躍を伝える工夫を期待したい。
改善状況	ホームページがリニューアルしたので、職員で検討し、日常生活や行事の紹介を 7 月末までに掲載します。
3. 職員の安全	残業時間および有給休暇の取得率は、職種間で格差が生じており、介護職員の

衛生に対するより一層の取り組みを期待する	有給休暇の取得が課題となっている。週1回、ノー残業デイを設けているが、形骸化している。平成25年11月を最後に労働安全衛生委員会が実施されおらず、次年度から実施予定である。より良いサービスを提供していくためには、職員の労働環境の改善が不可欠である。職員の安全衛生に対するより一層の取り組みを期待する。
改善状況	平成29年度の事業計画の重点目標に「職場環境の改善」に取り組みを掲げています。職員の勤務状況の調査を行い、その中で改善を図ります。

### デイサービス

1 利用者にとって快適な環境となるよう、より一層の取り組みを期待する	今年度は、男子トイレに便器が1ヶ所増設し男女で計4か所となるなど、利用者にとって快適な生活環境となるよう、適宜、修繕を行っている。職員アンケートでは、浴室の改善を指摘するコメントが複数名から出されていた。引き続き、利用者にとって快適な環境となるようより一層取り組みを期待したい。
改善状況	浴室だけでなく、平成29年度の事業計画で利用者の生活環境の改善を決め、具体的検討を進めています。
2 関係機関との連携強化に向けて、より一層の取り組みを期待する。	併設の居宅支援事業所を含めて、関係する居宅介護支援事業所との連家強化を図り、稼働率向上を目指している。事業所側は地域包括支援センター都の密な関係性の構築を持っている。地域に暮らす人たちの介護予防や日々の暮らしを様々な側面からサポートすることを主な役割としている地域包括支援センターとの連携強化はサービスの向上に不可欠である。包括支援センターを含めた関係機関との連携強化に向けて、より一層の取り組みを期待する。
改善状況	地域の方々のニーズをより受け止め、実践に移せるデイサービスにするため、関係機関や、社会福祉法人以外の事業所との連携を強化し、職員の意識改革を含めサービス向上の取り組みを検討中です。
3 地域の方々にとっての福祉拠点となるよう、より一層の取り組みを期待する。	施設の一部を開放し、フラワーアレンジメントなどの教室を開催したり、高齢者施設サービス拠点として地域社会や地域住民へ、高齢者施設の専門性を生かした介護セミナーを企画している。また、地域住民を対象に転倒予防対応教室等の事業展開をしていきたいとの意向も持っている。地域の方々の福祉拠点となるよう、より一層の取り組みを期待する。
改善状況	平成29年度の事業計画で地域の方々への通常のサービス提供以外で専門性、施設空間を生かした取り組みを決めています。デイサービスが中心となり、特別養護老人ホーム、居宅支援事業所と一緒に地域の講座を実施しています。